

時代に合う 「処方箋」を

企業や病院、行政、NPO…。現代社会はさまざまな組織で成り立っている。

「経営学と医学は似ていま

県立大学の 挑戦

「新任教員」紹介①

PR

経営学部 経営学科



【プロフィール】

京都大大学院経済学研究科博士課程。名古屋市立大経済学部講師などを経て、1996年から今年3月まで横浜国立大経営学部教授。専門は「企業と社会論」。公認会計士の試験の出題に関する試験委員も務める。福岡市出身

とみ 三戸 浩 教授 (63)

本県は多くの離島部を抱え、人口減少も深刻の一端だ。一方で、今春の赴任以来、県内を巡る中で感じたことがある。「人柄が良く、食べ物がおいしく、景色がいい」。ではどうやって、地域間競争に勝ち残っていくか。「新しい市場や商品をつくり機能させるには、全体をマネジメントする経営という手法が必要です」

九州の国公立大では唯一の経営学部で、学部長も務める。新学部1期生の学生にはこう語りかけている。

「『将来』と『未来』の2つを考えてほしい」

高齢化社会など予測して

対応するのが「将来」。足元の課題を踏まえ、ものごとを創造していく先にあるのが「未来」だと考える。「どうすれば自分が生まれた場所を豊かにし、家族を大切にできるか。ものの方を示していきたい」

◆ 県立大は今春の学部学科再編に伴い、産学官の各分野で多彩な経歴を持つ教授陣をそろえた。地域目線とグローバルな視野の双方で、大学の変革を加速させる。「挑戦」を支える新任教員を紹介する。【随時掲載】

7月17日(日)・18日(月祝)
オープンキャンパス

0956
(47)
5856

す。どこに問題があるかを診断し、時代や環境に合った在り方という処方箋を示すものです」。学問の役割を明快に位置付ける。